

30pmS-039

動画で見るインフルエンザ感染状況 — 東京近郊

○西田 志穂¹, 福岡 勝志¹, 鎗田 喜昭², 齋藤 充生^{2,3}, 林 讓^{2,3}, 矢島 毅彦³
(¹日本調剤, ²帝京平成大薬, ³ヘルスヴィジランス研)

【目的】 昨年の日本薬学会関東支部大会にて、我々はインフルエンザの地理的伝播パターンを把握するための新しい手法を提案し、東京近郊に点在する約150店舗の薬局データに基づき、インフルエンザは都心部から郊外に向かって広がり、郊外から都心部に向かって終息するという観測結果を発表した。本研究では、地理的伝播パターンを表す動画を新たに作成し、解析を行った。

【方法】 2009年9月～2013年8月までの4年間に、首都圏に位置する日本調剤の薬局(100～200店舗)で応需した抗インフルエンザ薬(オセルタミビル、ザナミビル、ラニナミビル)を含む処方せんを対象に解析を行った。薬局の位置を中心とし、患者数に比例する半径を持つ円を地図上に描き、その半径を患者数の日間変動に従って変化させる動画を作成した。なお、動画における円の半径、円の色透過度、1秒間のコマ数は設定変更が可能である。

【結果と考察】 従来は、患者数ピークの日を薬局毎に求め、10日毎に区切った5つの期間に振り分け、期間ごとに色分けした●を地図上の薬局所在地にプロットし、インフルエンザの拡大と終息の判定を行っていた。今回は、●の大きさが日ごとに変動する動画から、インフルエンザの感染状況をより視覚的かつ詳細に調べることができた。動画では2009年は、郊外から流行が始まる、流行の開始時期及び終息時期が早いなど特異な点が明確に示され、新型インフルエンザの流行の可能性が考えられる。動画は一目で理解できるので、薬局の待合室での放映等で薬局から地域住民へ情報の還元を図りたい。今後、風邪薬や花粉症薬などへ対象を広げ、表示方法のアンケート調査等も行う予定である。